

# うみやまかわ新聞

## 事業実施完了報告書

事業名：海と地域のつながりを見つける「うみやまかわ新聞」の制作

平成29年3月31日

特定非営利活動法人離島経済新聞社

## 目次

1. 事業名	3
2. プロジェクト名	3
3. 事業の目的と目標	3
(1) 本事業の目的について	3
(2) 本事業の目標について	3
4. 事業内容	4-8
(1) 事業内容について	4
(2) 実施推進体制・協力体制について	4-5
(3) 実施地域・実施小学校地・域コーディネーター・参加児童について	5-6
(4) 全体スケジュール	6-7
(5) 活用ツールについて	7-9
5. 実施内容および業務報告	10-34
(1) 全20コマの授業実施	10-12
(2) 新聞制作・印刷・配布	13-15
(3) WEBサイト制作	15
(4) 展示・発表会	15-18
(5) 広報・PRについて	19-24
6. アンケート集計結果	25-67
(1) プログラム実施後アンケート結果	25-40
7. 事業総括	41-42

### <別紙>

活用ツール：うみやまかわノート（全68ページ）

活用ツール：プログラム実施後アンケート（児童用記述式回答一覧含む）

展示・発表会用パネル・POPのPDFデータ一式

広報・PR掲載紙：季刊ritokei（リトケイ）17～20号

広報・PR用プレスリリース

## 1. 事業名

海と地域のつながりを見つける「うみやまかわ新聞」の制作

## 2. プロジェクト名

「うみやまかわ新聞」プロジェクト

## 3. 事業の目的と目標

### (1) 本事業の目的について

「海洋教育の推進」を重点テーマに、以下の目的のもと、本事業を企画・実施した。日本は6,852島からなる島国であり、世界6位のEEZ（排他的経済水域）を誇る海洋国家である。本土5島と418島の有人離島には「海彦山彦」と呼ばれる幸があり、海の水が水蒸気となり雨として山へ降り注ぎ、川を下ってまた海に流れる「水のつながり」がある。また、かつては海流によって船が行き交ったことで、遠く離れた地域同士の「文化的つながり」もみられる。海、山、川のある島国は、地域同士が「海や山や川によって隔てられている」とも捉えられるが、別の見方をすれば「海や山や川でつながっている」と捉えられ、地域をつなぐ「海」「山」「川」、それらに関連する「文化」「歴史」「経済」を知ることにより、日本の姿を見つめ直すことができる。現在、日本の人口は減少の一途を辿っており、2060年には8000万人台まで減少するというデータもある。この流れにのった都市一極集中の未来像では、日本各地の小規模地域は無人化してしまい、このままでは結果として「海」「山」「川」の荒廃を招き、「文化」「歴史」「経済」の衰退、個性豊かな「地域」「ふるさと」の消滅につながってしまう。日本各地の「地域」「ふるさと」が未来に残っていくためには、まず地域を支える人材の育成や教育機会が必要。また、近未来に対応していくためには最新技術の活用や他地域との連携経験が必要だ。そこで、これまで離島経済新聞社が培ってきた「他者・他地域との連携促進」「ICTの利活用促進」「日本を広く捉える視点の醸成」「自らが暮らす地域への誇りの醸成」といった施策実績とそのノウハウを用いて、山・川も含めた自然環境や文化、歴史、経済など、多角的かつ包括的な視点から各地域における「海」の重要性を学び、地域の人材育成につながる海洋教育の機会創出とその実現を目的に『海と地域のつながりを見つける「うみやまかわ新聞」の制作』事業を実施した。

### (2) 本業務の目標について

- ・事業プログラムの実施を通して、地域に暮らす子どもたちが「情報リテラシー」を養うことができること
- ・メディアの制作「地域取材する（掘り下げて研究する）」作業を重ねることで、子どもたちが、自らが暮らす地域における「海」との関わりや、その重要性を見つめ直し、新しく学ぶこと
- ・文化、歴史、環境、職などさまざまな事柄と密接に結びつく海洋教育の必要性を広く訴求すること
- ・チームでの活動により「他者との連携（協働作業）」「ICTの利活用」を身につけること
- ・他地域との連携により「他地域と連携」「日本を広く捉える視点」を養うこと

- ・「うみやまかわ新聞」の反響により、事業にかかわったことへの誇りを醸成する
- ・成果物を国内の教育機関へ送り届けることによって「海」「山」「川」でつながる「日本のつながり」を啓蒙すること

#### 4. 事業内容

##### (1) 事業内容について

2014年度・2015年度実績から、プログラムを小学校の学習指導要領にもとづき、カリキュラム化したものを、授業内容や使用ツールを見直し、より学校教育の現場に導入しやすく改変。日本全国から14エリアを選出し、各地域の小学校または団体等で総合学習プログラムとして導入。小学校（11校）では総合学習の時間を活用し、地域団体（3地域）では地域の課外活動として、約20時間にわたって、テレビ電話会議システムを活用した授業を実施。該当地域の行政・学校（その他教育機関）・民間（受け入れ団体、地域コーディネーター）との連携で、ウェブサイトおよび紙の「うみやまかわ新聞」を制作・発行。うみ・やま・かわのつながりを通して自分の暮らす地域と他地域のつながりを知り、海洋国家の価値を学ぶ。また、過去3年間での授業実績を元に、広く一般に導入ができるように、これまでの取り組みをまとめた「うみやまかわ白書」を制作・発行。小学生年代への海洋教育の普及・促進を図る。

##### (2) 実施推進体制・協力体制について

###### 【体制】

事務局：特定非営利活動法人離島経済新聞社

プロジェクトマネージャー：大久保昌宏（特定非営利活動法人離島経済新聞社）

運営スタッフ：松本一希（特定非営利活動法人離島経済新聞社）

講師：鯨本あつこ（離島経済新聞統括編集長）

小野民（離島経済新聞編集スタッフ）

上島妙子（離島経済新聞編集スタッフ）

アドバイザー：勝眞一郎（サイバー大学IT総合学部教授）

松川來仁（株式会社フィオレ・コネクション代表取締役）

望月洋佑（野村アグリプランニング&アドバイザリー株式会社）

ディレクター：多和田真也（株式会社タワー）

宮本なみこ（特定非営利活動法人離島経済新聞社）

石原みどり（特定非営利活動法人離島経済新聞社）

編集コーディネーター：甲斐かおり

アートディレクション：岡崎智弘（SWIMMING INC.）

紙面デザイン：西本瑤（SWIMMING INC.）

WEBデザイン・制作：鈴木健太郎

イベント設営・運営：株式会社ハレットケ

制作：株式会社リトルコミュニティラボ

印刷：株式会社朝日プリンテック

###### 【助成】

公益財団法人日本財団平成28年度助成

### 【協力】

北海道利尻町教育委員会

千葉県いすみ市

長野県木曾町

高知県佐川町

愛媛県上島町

東武タウンソラマチ株式会社

公益財団法人日本デザイン振興会

### (3) 実施地域・実施小学校・地域コーディネーター・参加児童について

#### 【実施地域】

北海道利尻町／千葉県いすみ市／東京都江戸川区／山梨県北杜市／長野県木曾町／滋賀県近江八幡市／岡山県真庭市／愛媛県上島町／高知県佐川町／長崎県対馬市／大分県日田市／鹿児島県屋久島町／鹿児島県和泊町／沖縄県うるま市

#### 【実施小学校】

(北海道利尻町と長野県木曾町、山梨県北杜市は地域団体での導入・実施)

- ・ 千葉県いすみ市立太東小学校 (千葉県いすみ市)
- ・ 東京都江戸川区立二之江第三小学校 (東京都江戸川区)
- ・ 滋賀県近江八幡市立沖島小学校 (滋賀県近江八幡市)
- ・ 岡山県真庭市立落合小学校 (岡山県真庭市)
- ・ 愛媛県上島町立弓削小学校 (愛媛県上島町)
- ・ 高知県佐川町立尾川小中学校 (高知県佐川町)
- ・ 長崎県対馬市立豊小学校 (長崎県対馬市)
- ・ 大分県日田市立津江小中学校 (大分県日田市)
- ・ 鹿児島県屋久島町立金岳小学校 (鹿児島県屋久島町)
- ・ 鹿児島県和泊町立大城小学校 (鹿児島県和泊町)
- ・ 沖縄県うるま市立津堅幼・小・中学校 (沖縄県うるま市)

#### 【地域コーディネーター】

- ・ 北海道利尻町：高橋哲也 (津田商店代表取締役)
- ・ 千葉県いすみ市：磯木淳寛 (フリーランス編集者 (いすみ市在住))
- ・ 東京都江戸川区：宮嶋隆行 (一般社団法人葛西臨海・環境教育フォーラム)
- ・ 山梨県北杜市：篠鉄平 (一般社団法人里くら)
- ・ 長野県木曾町：都竹亜耶 (長野県木曾町農政課)、榎本浩実 (長野県木曾町地域おこし協力隊)
- ・ 滋賀県近江八幡市：富田雅美 (沖島町離島振興推進協議会)
- ・ 岡山県真庭市：西本恭子 (真庭市交流定住センター)
- ・ 愛媛県上島町：藤巻光加 (まるふ農園)
- ・ 高知県佐川町：川合里奈 (越知町地域おこし協力隊)
- ・ 長崎県対馬市：細井尚美 (フリーランス)
- ・ 大分県日田市：河井昌猛 (株式会社マルエイ)

- ・ 鹿児島県屋久島町：貴船恭子（口永良部島ガイド協会）
- ・ 鹿児島県和泊町：古村英次郎（一般社団法人おきのえらぶ島観光協会）
- ・ 沖縄県うるま市：喜久川望（一般社団法人ジョブリッジ研究所）

#### 【参加児童】

- ・ 北海道利尻町：17名（小学校4～6年生）
- ・ 千葉県いすみ市：35名（小学校6年生）
- ・ 東京都江戸川区：45名（小学校6年生）
- ・ 山梨県北杜市：26名（小学校5年生）
- ・ 長野県木曾町：4名（小学校5～6年生）
- ・ 滋賀県近江八幡市：9名（小学校3～6年生）
- ・ 岡山県真庭市：30名（小学校6年生）
- ・ 愛媛県上島町：23名（小学校6年生）
- ・ 高知県佐川町：12名（小学校5～6年生）
- ・ 長崎県対馬市：8名（小学校5～6年生）
- ・ 大分県日田市：10名（小学校6年生）
- ・ 鹿児島県屋久島町：3名（小学校4・6年生）
- ・ 鹿児島県和泊町：10名（小学校6年生）
- ・ 沖縄県うるま市：7名（小学校3～6年生）

#### (4) 全体スケジュール

##### ① 事業基盤整備（2016年4月1日～5月31日）

事務局体制確定／プロジェクトマネジメント開始／実施カリキュラム策定／関係者調整／導入・実施小学校・地域の公募・選定／講師、編集コーディネーター、地域コーディネーター、アドバイザーをアサイン／委託先正式調整／機材手配／地域コーディネーター研修実施

##### ② 対象14地域調整（2016年4月1日～5月31日）

①と並行して対象14地域にて事前打ち合わせ／各地域にて機材導入と事業説明を実施

##### ③ プログラム実施開始（2016年6月1日～2016年6月30日）

対象14地域にてプログラム実施をスタート

##### ④ 媒体基盤制作（2016年7月25日～8月31日）

クリエイティブディレクション／事業のクリエイティブ方針確立

##### ⑤ 対象14地域にて各授業等実施（2016年9月1日～12月20日）

プロジェクトマネージャーおよびディレクター、編集コーディネーターが現地を訪問しつつ、テレビ電話会議システムを活用して講師による授業を実施

##### ⑥ 広報PR（2016年5月1日～2017年3月31日）

紙媒体・ウェブ媒体にて事業紹介を掲載。事業の意義や目的について広報PRを実施  
公益財団法人日本デザイン振興会・グッドデザイン賞に応募し、受賞

グッドデザイン賞関連の展示会ならびにエコプロ2016に出展

⑦ うみやまかわ新聞紙面・WEBデザイン（2016年12月20日～2017年3月31日）  
紙版・WEB版のうみやまかわ新聞のデザイン制作を実施

⑧ 展示・発表会準備（2016年12月1日～2017年2月19日）  
展示用ツール制作／会場手配／各地域の生徒受け入れ態勢整備

⑨ WEBサイト「うみやまかわ新聞」更新管理開始（2017年3月1日～3月31日）  
WEBサイトにて、授業を通じて制作した記事等を公開

⑩ 発表会開催（2017年2月19日）

下記日程にて発表会を開催

【発表会】

東京スカイツリータウン® 東京ソラマチ5階12番地 スペース634：2017年2月19日

⑪ 流通（2017年2月10日～3月31日）

参加小学校・地域への配布／関係各所への配布

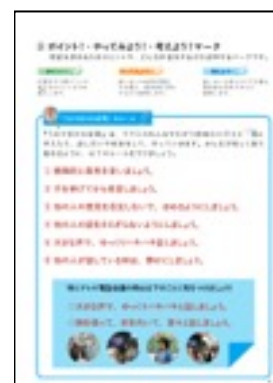
⑫ 次年度カリキュラム／次年度マニュアル／報告書作成（2017年3月）

次年度に向けたカリキュラム、マニュアルおよび報告書を作成

(5) 活用ツールについて

① 教育ツール「うみやまかわノート」（※別紙参照）

プログラム実施用に制作。このノートをもとに授業を実施



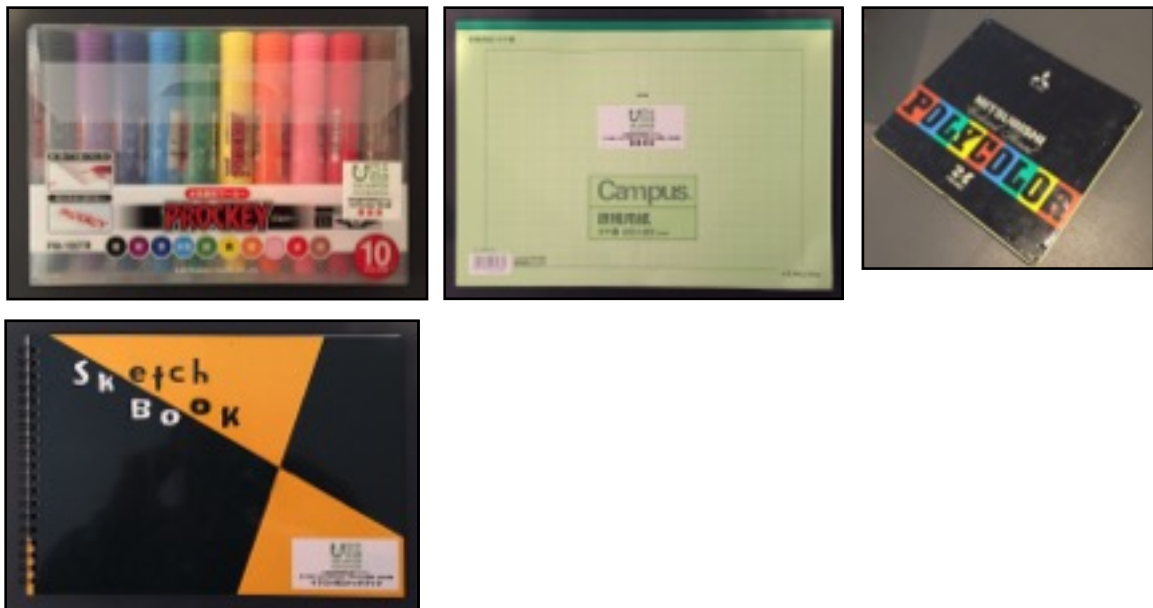
### ② テレビ電話会議システム

専用アカウントを使用し、WEBカメラ、マイクスピーカを設置。ICTを活用した遠隔授業を実施



### ③ 原稿・イラスト制作ツール

専用の原稿用紙とスケッチブック、色鉛筆等を使用し、取材原稿、イラスト等の制作を実施





④ デジタルカメラ

デジタルカメラを支給し、取材時に撮影



⑤ ICレコーダー

ICレコーダーを支給し、取材時に録音



⑥ ワークシート

教科書である「うみやまかわノート」とは別に、児童の作業をサポートするために、宿題などを行うワークシートを配布。



## 5. 実施内容および業務報告

### (1) 全20コマの授業実施：2016年6月1日～3月31日

小学校の学習指導要領を参考に、カリキュラムを策定。対象14地域にてカリキュラムに則った全20コマの授業を実施。毎回、テレビ電話会議システムを通じて、講師による講義、他地域との接続を通して交流等を行う。島国日本の地理的特性や各地域のうみ・やま・かわについて学ぶとともに、新聞制作に必須の編集スキルを身につける。併せて、各地域にてうみ・やま・かわにかかわる人や歴史、文化などを取材。新聞に掲載する記事・イラストの制作等を行う。

＜授業カリキュラム＞

#### 単元①【つかむ①】（45分×1コマ）

##### 1：新聞づくりを学ぶ①

###### 情報の基本やツールを学ぶ／チームを組む

新聞やインターネットなど情報メディアの基礎を、教科書とスライドを活用しながら学び、その違いについて気づきを得る。プロが行っている実際の新聞作りの工程や基本的なツールの使用方法を学ぶとともに、授業の目的や目標を共有する。

#### 単元②【考える①】（45分×1コマ）

##### 1：地域のテーマ（課題・魅力など）を考える①

###### 地域の特色、特徴、課題を考える／新聞のテーマを考える

グループワークを主軸に、自分たちが暮らす地域について考え、グループ内での発表からクラス内での発表、テレビ電話を活用した地域間による発表を行い、地域ごとに新聞にまとめるテーマを決める。

#### 単元③【つかむ②】（45分×1コマ）

##### 1：新聞づくりを学ぶ②

###### 情報の取捨選択の仕方を学ぶ／メディアリテラシーを学ぶ

座学を中心に必要な情報を探し、選ぶためのポイントや著作権・肖像権などのメディアリテラシーを学ぶ。その後、自分が暮らす地域についてリサーチをするという課題を出す（宿題として児童各自が対応）

#### 単元④【調べる】（45分×1コマ）

##### 1：地域の「うみ」「やま」「かわ」を調べる

###### 書籍やインターネットを使って地域の「うみ」「やま」「かわ」や特色、特徴などを調べる

単元③終了後に出した課題を元にグループワークを実施。それぞれが持ち寄ったリサーチ結果を発表しあい、さらに深く掘り下げるリサーチ作業を行う。学校の図書室や事前に地域コーディネーターが用意した資料、パソコンなどを活用して、「うみ」「やま」「かわ」のキーワードに則って、知りたいこと・分からないことを抽出する。

### 単元⑤【考える②】（45分×1コマ）

#### 1：地域のテーマ（課題・魅力など）を考える②

リサーチ結果を掘り下げ、地域のテーマを決定する／掲載記事候補出しを行う

リサーチによって得られた内容を元に、改めて地域のテーマをグループワークを中心に話し合う。リサーチをする前と後での違いに気づき、さらなる対話と思考する時間を設けることで、テーマを明確にし、それに伴う掲載記事候補出しを行う。

### 単元⑥【作る】（45分×12コマ）

#### 1：新聞づくりを実践する①

掲載記事の決定、担当分け／取材準備～取材～原稿・イラスト制作

座学・グループワーク・他地域との交流授業を適宜行いながら、新聞に掲載する記事の決定やその担当者決めを行い、実際の新聞づくりを実施する。

### 単元⑦【伝える】（45分×2コマ）

#### 1：新聞づくりを実践する②

新聞づくりで学んだことを発表する

東京での発表会に向けて、一連の授業で学んだことを発表する練習を行い、何を学び、どう感じたのか、それを今後何に活かしていくのかなどを自分で考え、自分の言葉で伝える方法を学ぶ。

### 単元⑧【深める】（45分×1コマ）

#### 1：新聞づくりを通して島国の多様性を学ぶ

各地の新聞を見比べて島国の多様性を学ぶ／新聞を見比べて学んだことを発表する

東京での発表会の振り返りと、他地域の新聞の読み比べを実施。自分たちが制作した新聞との内容の違いや親和性を感じ、海に囲まれた島国・日本の多様性を学ぶ。その後、クラス内、他地域との交流などで学んだことを発表し、様々な意見を聞くことで、さらに学びの内容を深める。

<授業実施風景>



(2) 新聞制作・印刷・配布：2016年12月20日～2017年3月31日

2016年6月1日から実施した前項(1)で制作した原稿・イラスト、撮影した画像を、アートディレクター・デザイナーが新聞紙面にデザイン・レイアウト。

対象14地域分の素材を1冊にまとめ、制作。タブロイドサイズ(H406×272mm)にて印刷を行った。刷り上がった新聞は、対象12地域ならびに関係各所へ配布。

① 新聞制作

【うみやまかわ新聞(全20ページ)】



## ② 印刷

全国版・地域版は下記部数を印刷。全国版はブラケット版、地域版はタブロイド版。

### 【印刷部数】

#### ◆30,000部

北海道利尻町：1,500部／千葉県いすみ市：4,000部／東京都江戸川区：1,000部／  
山梨県北杜市：2,000部／長野県木曾町：5,500部／滋賀県近江八幡市：1,000部／  
岡山県真庭市：1,500部／愛媛県上島町：4,500部／高知県佐川町：1,000部／  
長崎県対馬市：3,000部／大分県日田市：1,000部／鹿児島県屋久島町：1,000部／  
鹿児島県和泊町：2,000部／沖縄県うるま市：1,500部

## ③ 配布

事業への認知度向上、趣旨・意義への理解度・共感度向上を目的に、以下の各所へ配布を実施

### 【全国版】

対象14地域への配布と展示会・発表会での配布、特定非営利活動法人離島経済新聞  
社会員への配布、ならびに今後、導入確度の高い都道府県各市区町村の教育委員会  
(※別紙参照)へ配布

各地域におけるおもな配布ルートは以下。

- ・北海道利尻町：利尻町全戸／利尻町・利尻富士町役場／図書館／小学校／観光協会各所／授業への協力者（取材対象者等）
- ・千葉県いすみ市：いすみ市役所／小学校／観光協会各所／授業への協力者（取材対象者等）
- ・東京都江戸川区：江戸川区役所／小学校／授業への協力者（取材対象者等）
- ・山梨県北杜市：北杜市役所／市内の小学校（10校）／市内図書館（8館）／北杜市教育委員会／北杜市東部教育センター／北杜市観光商工課／授業への協力者（取材対象者等）／温泉施設（7カ所）／山梨県立八ヶ岳自然ふれあいセンター／そのほか（地域応援をしているスーパーマーケットなど）
- ・長野県木曾町：木曾町全戸／木曾町役場／参加児童の小学校／観光協会各所／授業への協力者（取材対象者等）
- ・滋賀県近江八幡市：滋賀県近江八幡市沖島内の各所／小学校／観光協会各所／授業への協力者（取材対象者等）
- ・岡山県真庭市：真庭市役所／小学校／授業への協力者（取材対象者等）
- ・愛媛県上島町：上島町全戸／上島町役場／小学校／中学校／図書館／観光協会各所／授業への協力者（取材対象者等）
- ・高知県佐川町：佐川町役場／小学校／観光協会各所／授業への協力者（取材対象者等）
- ・長崎県対馬市：対馬市役所／小学校／観光協会各所／授業への協力者（取材対象者等）
- ・大分県日田市：日田市市役所／中津江公民館／小学校／中学校／観光協会各所／授業への協力者（取材対象者等）

- ・鹿児島県屋久島町：屋久島町口永良部島各所／小学校／観光協会各所／授業への効力者（取材対象者等）
- ・鹿児島県和泊町：和泊町役場／観光協会各所／知名町役場／小学校／授業への協力者（取材対象者等）
- ・沖縄県うるま市：うるま市津堅島全戸／小学校／観光協会各所／授業への協力者（取材対象者等）

(3) WEBサイト制作：2017年2月1日～2017年3月31日

うみやまかわ新聞の制作後、うみやまかわ新聞WEBサイトの制作・更新を進行。新聞紙面のデザインを踏襲しながら、見やすく、分かりやすい構成とデザインで、より多くの人に事業の趣旨・意義を理解してもらい、認知されることを目的に制作。同時に、2014年度事業実施時の記事も残しつつ、事業そのものの継続性・拡大状況を視認できるようにした。

【うみやまかわ新聞WEBサイト】

トップページ



(4) 各種展示会：2016年10月～2017年3月

グッドデザイン賞受賞展「GOOD DESIGN EXHIBITION 2016」（2016年10月28日～11月3日）

小学校向けの総合学習カリキュラムとして2016年度グッドデザイン賞（分類：教育・推進・支援手法）に応募。子どもたちとつくる新聞という取り組みに対して評価を得ることができ、受賞。受賞に伴い、受賞者のみが出展できる「GOOD DESIGN EXHIBITION 2016」（東京ビッグサイト）に出展。本事業の意義の周知を行った。

「エコプロ2016」(2016年12月8日～12月10日)

より広く事業の意義の周知を図るために、NPO団体の取り組み事例として、「エコプロ2016」(東京ビッグサイト)に出展。展示パネルと2015年度までの成果物を展示しつつ、2016年度の取り組み紹介を実施した。

「日経メッセ 特別企画「GOOD DESIGN Biz EXPO」」(2017年3月8日～3月10日)

グッドデザイン賞受賞対象者限定で出展できる特別企画展(東京ビッグサイト)に参加。2016年度の成果物を展示し、過去3年間の取り組みとその意義を広くPR。

展示風景(展示パネルの詳細は別添参照)



(5) 発表会：2017年2月19日

東京スカイツリータウン® 東京ソラマチ5階12番地 スペース634：2017年2月19日

参加者数：158名(児童・教職員・地域コーディネーター含む)

取材メディア：4社(愛媛新聞社・全国農業新聞・日本財団)

当日タイムテーブル：

10：00 開場

10：20 開会挨拶+事業紹介

10：27 参加児童による「うみやまかわ新聞」の取り組み発表

12：48 修了証授与

13：05 発表会終了

13：05～14：00 ランチを兼ねた懇親会を開催



### 前日交流風景

宿舎にて地域間交流を実施。これまで授業時にテレビ電話会議システムを活用して交流していた児童たちが、実際に対面することで、コミュニケーション力の育成を図った。



### 発表会風景

東京都墨田区にある東京スカイツリータウン® 東京ソラマチ5階12番地 スペース634にて開催。会場内では事業の趣旨や参加地域の紹介、新聞完成にいたるまでのラフ・校正紙などを展示し、これまでの取り組み風景などを紹介。児童たちは、各自でまとめた内容をもとに、150名を越す参加者・関係者の前で、自分たちの地域のうみやまかわ新聞を発表。当日、登校日として日程調整を行った小学校4校（東京都江戸川区立二之江第三小学校・高知県佐川町立尾川小中学校・長崎県対馬市立豊小学校・鹿児島県屋久島町立金岳小学校・鹿児島県和泊町立大城小学校）がテレビ電話会議システムを使い、会場と接続。現地に来られなかった児童が、発表する代表児童の応援を行った。全地域発表後には、児童がこれまで取り組んできた本事業に誇りを持ち、地域内での事業認知向上につながるように、代表児童に修了証を授与。終了後は昼食を兼ねた懇親会を実施。



(6) 広報・PRについて：2016年5月1日～2017年3月31日

本事業を通じて、以下の広報・PRを実施した。

① 実施事業の趣旨・意義の訴求と認知度拡大のための広報・PR

季刊ritokey (リトケイ) 17号 17面 (2017年5月29日発行 ※別紙参照)

発行部数：5000部



季刊ritokey (リトケイ) 18号 18面 (2017年8月28日発行 ※別紙参照)

発行部数：5000部



季刊ritokey (リトケイ) 19号 16-17面 (2016年11月27日発行 ※別紙参照)  
 発行部数：5000部



季刊ritokey (リトケイ) 20号 15面 (2017年2月29日発行 ※別紙参照)  
 発行部数：5000部



② 発表会告知のための広報・PR

プレスリリース配信（離島経済新聞社関係メディアに送付）

※発表会参加生徒の個人情報等保護のため、配信先は離島経済新聞社にて選定



関係各所（教育機関等）配布（離島経済新聞社関係各所に送付）

※発表会参加生徒の個人情報等保護のため、配布先は離島経済新聞社にて選定



③ その他、広報・PRによる掲載メディア

奄美新聞3面（2016年6月9日発行）



奄美新聞10面（2016年7月1日発行）



愛媛新聞20面（2016年7月6日発行）



愛媛新聞9面（2017年2月20日発行）



中日新聞長野版24面（2017年2月23日発行）



市民タイムス木曽版1面（2017年2月24日発行）



信濃毎日新聞25面（2017年2月24日発行）



高知新聞24面（2017年2月28日発行）



中日新聞滋賀版18面（2017年3月6日発行）



大分合同新聞朝刊14面（2017年3月14日発行）



千葉日報11面（2017年3月18日発行）





## 6. アンケート集計結果

### (1) カリキュラム終了後アンケート結果

対象14地域にて全カリキュラムを終了後、先生・児童・地域コーディネーターへのアンケートを実施。海洋教育への理解度、カリキュラム内容の適切さなどを可視化。

#### <アンケート用紙>

アンケート用紙の表紙（左側）は、「うみやまかわ新聞」のロゴと「うみやまかわ新聞」のタイトルが記載されています。アンケートの趣旨や回答方法に関する説明が記載されています。

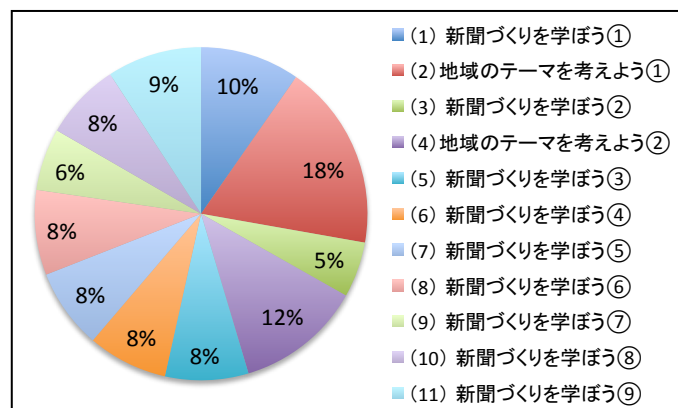
アンケート用紙の表紙（右側）は、「うみやまかわ新聞」のロゴと「うみやまかわ新聞」のタイトルが記載されています。アンケートの趣旨や回答方法に関する説明が記載されています。

#### <児童向け>

Q1：楽しかった授業を教えてください。（複数回答可）

- A1：1.新聞作りを学ぼう① 2.地域のテーマを考えよう 3.新聞作りを学ぼう②  
4.地域のテーマを考えよう② 5.新聞作りを学ぼう③ 6.新聞作りを学ぼう④  
7.新聞作りを学ぼう⑤ 8.新聞作りを学ぼう⑥ 9.新聞作りを学ぼう⑦  
10.新聞作りを学ぼう⑧ 11.新聞作りを学ぼう⑨

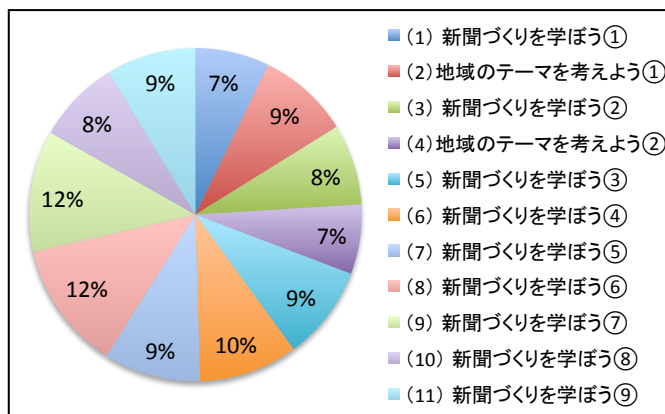
(1) 新聞づくりを学ぼう①	61
(2) 地域のテーマを考えよう①	114
(3) 新聞づくりを学ぼう②	34
(4) 地域のテーマを考えよう②	77
(5) 新聞づくりを学ぼう③	51
(6) 新聞づくりを学ぼう④	49
(7) 新聞づくりを学ぼう⑤	49
(8) 新聞づくりを学ぼう⑥	52
(9) 新聞づくりを学ぼう⑦	38
(10) 新聞づくりを学ぼう⑧	47
(11) 新聞づくりを学ぼう⑨	58



Q2：難しかった授業を教えてください。（複数回答可）

A2：1.新聞作りを学ぼう① 2.地域のテーマを考えよう 3.新聞作りを学ぼう②  
4.地域のテーマを考えよう② 5.新聞作りを学ぼう③ 6.新聞作りを学ぼう④  
7.新聞作りを学ぼう⑤ 8.新聞作りを学ぼう⑥ 9.新聞作りを学ぼう⑦  
10.新聞作りを学ぼう⑧ 11.新聞作りを学ぼう⑨

(1) 新聞づくりを学ぼう①	33
(2)地域のテーマを考えよう①	41
(3) 新聞づくりを学ぼう②	36
(4)地域のテーマを考えよう②	31
(5) 新聞づくりを学ぼう③	42
(6) 新聞づくりを学ぼう④	44
(7) 新聞づくりを学ぼう⑤	43
(8) 新聞づくりを学ぼう⑥	57
(9) 新聞づくりを学ぼう⑦	54
(10) 新聞づくりを学ぼう⑧	37
(11) 新聞づくりを学ぼう⑨	40



Q8：うみやまかわ新聞の授業について感想を教えてください。

※Q3～Q7は別紙参照

※記述式については抜粋とし、その他の回答については別添資料を参照

#### ■北海道利尻町

- ・みんなで楽しくできてよかった。
- ・テレビ電話で学べたのがよかった。
- ・やってみたら意外と楽しかった。
- ・テレビ電話のあれがすごかった。
- ・楽しかった。

#### ■千葉県いすみ市（いすみ市立太東小学校）

- ・自分の地域のことがかけたからよかったです。
- ・みんなで作るとすごくいいのができたこと。
- ・いすみ市のうみやまかわのよいところを知ってほしい。
- ・いすみ市についてもっと色々知れたし、もっといすみ市を知りたくなった。
- ・新聞に自分の書いたことが載っていて、すごいことをやったのだと思いました。

#### ■東京都江戸川区（江戸川区立二之江第三小学校）

- ・みんなの力で1枚の新聞にできたことがとにかく一番うれしいです。またこういう新聞をつくれる機会があったらいいなと思いました。
- ・他の地域とテレビ電話できて良いと思った。
- ・新聞作りにはたくさんの人、情報が必要だと分かった。毎日、新聞を作る人はすごいと思った。
- ・自分の地域だけではなく、少ないページ数でちがう地域の事を知れるのですごいなと思った。
- ・新聞づくりにはたくさんの方の協力があつてできあがつたのでとても感謝しています。

#### ■山梨県北杜市

- ・地域の自然の事を知れてよかった。それに、北杜市は（地域導入のため）いろいろな小学校から来ていたので、他の小学校の人とも仲良くなれてよかった。
- ・新聞にはいろいろな人が関わっている事を知りとてもすごいと思った。
- ・地域の魅力やすごいところをたくさん知れてよかったです。
- ・一年間かけてみんなで新聞を作れて嬉しかった。
- ・普段知る事のない新聞作りや他の土地の小学生たちとの交流ができた事がとても楽しかった。

#### ■長野県木曾町

- ・自分の地域やほかの地域の人知らなかった事がたkyさん知れたし、木曾にはこんな宝があったのと改めて知りました。
- ・新聞の作り方やほかの地域についてもよく分かった。
- ・新聞作りの内容は少しは知っていたけど、まさかこんなに苦労するとは思わなかった。
- ・とても勉強になったし楽しかったので、やれたら来年もやりたいです。

#### ■滋賀県近江八幡市（近江八幡市立沖島小学校）

- ・最初は大変だからあまりやりたくなかったけど、東京発表が終わって1年を振り返って見て、こんな体験はめったにないから、新聞作りをしてよかったなと思いました。
- ・大変だった時もあつたり楽しいところもあつた。
- ・（テレビ電話で交流をして）他の地域の事を参考にできたのがよかった。

#### ■岡山県真庭市（真庭市立沖島小学校）

- ・うみやまかわ新聞でたくさんの方々とふれあえてよかったです。
- ・人とのコミュニケーション能力が上がったのでとても良い経験になりました。
- ・他の県の人と、自分たちの地域の魅力などを伝えあつたりすることが楽しかったです。
- ・落合の魅力が分かったし、新聞一面を作るのにどれだけ大変かが分かった。

- ・地域を知ることができてよかったです。
- ・ふつうの授業でできないことができてよかった。

#### ■愛媛県上島町（上島町立弓削小学校）

- ・改めてこの地域のことを学ぶことができとても楽しい授業でした。さらに勉強にもなったのでよかったです。
- ・知っていることはもっとくわしく改めて知れたし、知らなかったことも知れたのでよかったです。うみやまかわ新聞の授業で、自分が住んでいる所の魅力をたくさん知れたのでよかったです。
- ・都会のような流行やお店があるわけではないけど、島のように海、山、川の恵みを大切にしようと思いました。
- ・同じ島に住んでいる人たちだからこそ、会話がはずんだり、「へーそうなんだ！」ということもいっしょに知れて、他の地域でもそのようなことがあったんじゃないかと感じました。
- ・これまで、うみやまかわ新聞を見る側だったけど、今回は作る側だったので、作り終わってみんなに見てもらったのが嬉しかったです。

#### ■高知県佐川町（佐川町立尾川小中学校）

- ・自分が知らなかった地域の事を知れてよかった。
- ・原稿をなおす時は（またか、はあ）と思ったけど、作り終わったら良い新聞だと思いました。
- ・日本のいろんな地域の事が知れたし、みんなに知ってもらえて本当に嬉しかったです。それに新聞作りが体験できてよかったです。
- ・文字数の調節や伝わりやすいように書くのは大変だったけど、できた時はとてもうれしかったし、尾川の魅力がたくさんの人に伝わるといいなと思いました。
- ・この一年間で地域について全然知らなかった自分も取材を通して地域のすごさや地域の方の優しさも知れました。記者の方は毎日、こんな大変な作業をしているなんて知りませんでした。今度から新聞を読む時は気をつけて読んでみたいです。
- ・地域の人と取材を通して交流できたのでよかったです。

#### ■長崎県対馬市（対馬市立豊小学校）

- ・最初はどんな授業をするのかドキドキしていたけど、テレビ電話を通して、いろいろな人とふれ合ったり、取材をしたりして、とても楽しかったです。初めてのことが多く、とても良い経験ができたなと思いました。
- ・自分の地域についてふだんよりずっと深く考えられたのでとても楽しかったです。
- ・うみやまかわ新聞でテレビ電話でいろいろな人と話せて楽しかった。
- ・実際には会えないけど、テレビ電話だったらかんたんに（会話などが）できる。返事とかが大切。
- ・テーマを決めたり原稿を書くのは大変だったけど完成した時の達成感がうれしかったです。
- ・新聞を作るのは大変だったけど、すごく楽しく授業をできたし勉強になったので、これからも機会があれば作ってみたいです。

・今まで、何年間も対馬で暮らしたけど、（対馬について）あまりくわしくなかったです。でも、この勉強を通じて少しでも知れたのでよかったです。

■大分県日田市（日田市立津江小中学校）

- ・津江は自然が豊かで自然を活かした産業をしていることが分かった。
- ・新聞を書くことがこのうみやまかわ新聞を通してもっと楽しくなりました。もっと新聞の授業をしたいと思いました。
- ・うみやまかわの授業で取材の仕方など、学校ではふつう習わないことを学べて楽しかったです。
- ・（津江は）自然の山、川に囲まれているなあと思った。自然をこわさないことが大切だなと感じた。

■鹿児島県屋久島町（屋久島町立金岳小学校）

- ・難しかったけどエラブ（口永良部島）について知れていい経験になった。
- ・新聞ができるまではとても大変なのが分かった。
- ・分かりやすくてとても楽しかった。

■鹿児島県和泊町（和泊町立大城小学校）

- ・交流できてよかった。
- ・うみやまかわ新聞をして、知らなかったことも知れたのでよかった。
- ・他の地域の歴史やすごい物が分かったのでよかった。
- ・自分の島とほかの島のちがいが分かりました。

■沖縄県うるま市（うるま市立津堅幼・小・中学校）

- ・自分たちの住んでいる島についてわかるようになった。
- ・いろいろな地域でがんばっている人たちがいることを知った。
- ・島の人たちのこと（仕事や人のこと）が分かった。

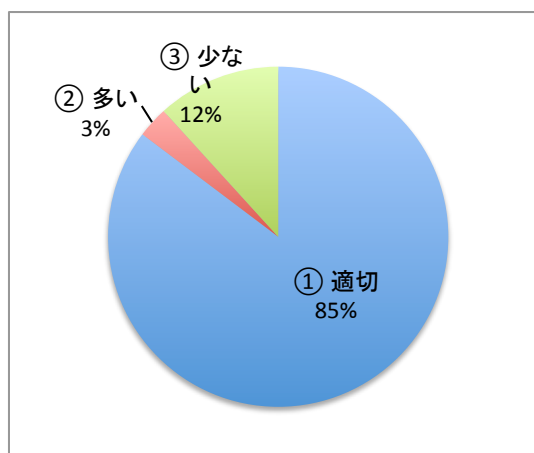
<先生・地域コーディネーター向け>

【スケジュールについて】

Q1：年間通しての実施時間数（当初想定20時間）はいかがでしたか？

A1：①適切だった ②多い ③少ない

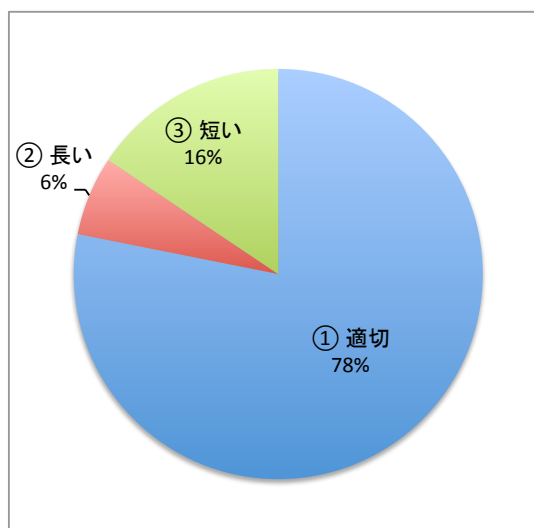
① 適切	29
② 多い	1
③ 少ない	4



Q2：毎回の授業時間内での時間設定（各項目にかける時間）はいかがでしたか？

A2：①適切だった ②多い ③少ない

① 適切	25
② 長い	2
③ 短い	5



Q3：Q1、Q2について、ご意見・ご要望等、お聞かせ下さい。

実際に授業でかかったコマ数や、授業実施における理想的なコマ数も教えてください

#### ■良かった点

- ・地域導入のため臨機応変に対応できればと思います。
- ・2クラスでの取り組みだったので、2時間続きでとれるコマが本当に少なく苦労した（専科等の授業があるため）。2クラス合同での座学にしてもらって助かった。
- ・新聞作りの学習はとても有意義だった。今年は「福祉（学年での総合テーマ）」に合わせてもらったので、スムーズに進められた。
- ・昨年に比べて贅肉がとれた感じでとてもよかったです。

## ■反省・改善点

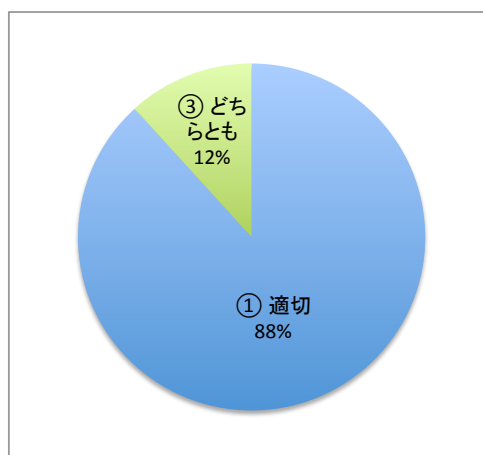
- ・原稿を書く時間は予定よりもだいぶかかりました。もう少し書く時間をとっていただけでも嬉しいです。
- ・30時間くらいが適切かなあ。内容によって長いところと短いところがあったと思う。
- ・取材やその準備などに必要な時間が想定していたよりも多くあったようです。
- ・5、6年生であれば適切だったと思います。本校の場合、3年生以上で取り組んでいたのも、特に3年生はもう少し多く時間を取りました。ただ、カリキュラムとして20時間は妥当だと感じました。
- ・1コマで教えてもらい、子どもが考えてまとめるとなると時間が少なく感じてしまう場面が多くあった。
- ・小学校高学年のプログラムなので、高学年に関しては適切だったと思うが、沖島小学校に関しては考える授業は難しかったかなと思います。
- ・子どもの意識の流れを上手にもっていくことがアクティブラーニングにつながると思うので、上記コマ数と同じくらいの時間を総合的な学習の時間にとり、授業に取り組んだ。
- ・具体的にかかった時間はわかりませんが、取材内容や取材先決めなどが授業内では決まらない場面もありました。
- ・授業内で児童たちが考えるワーク、話し合うワークの時は、必ず設定時間内では収まらず、もう少し時間の余裕があったら良かったかもしれません。（それを言うとは際限がないかもしれませんが…）。
- ・記事にするまでの取材活動はやはり時間がかかりました。取材先へのコンタクトや取材、次への課題などを整理していく時間がかかります。本校では、授業で取り組んでいたのも、いくらでも調整ができますので、さほど問題ではありませんでした。
- ・5回目の授業内で取材先や質問内容を決定できなかったのも、プラス1時間を別の日にいただきました。クラスだけでもう1時間使って話し合われたようです。
- ・全ての記事を直接取材で行ったのも、実際には、6回目の授業も入れると5回を取材のために使いました。でも、調べただけの記事よりも実際に会って伺った取材はとて重みがあると感じました。
- ・取材後、記事にしていく作業はもう少し余裕があったほうがいいのかも。
- ・はじめのテーマ決めに時間がかかった。しかし、1番重要な部分だと思うので、本年度の流れで良いと思う。各校、授業で週1時間ずつ『学級活動』という授業がある。この授業は、自分たちに関する内容を話し合う時間である。可能ならその時間を使い、話し合わせるのも1つの手段だと思う。

【授業内容について】

Q1：全体のカリキュラムについて、各単元の構成・実施順等はいかがでしたか？

A1：①適切だった ②改善した方がよい ③どちらとも言えない

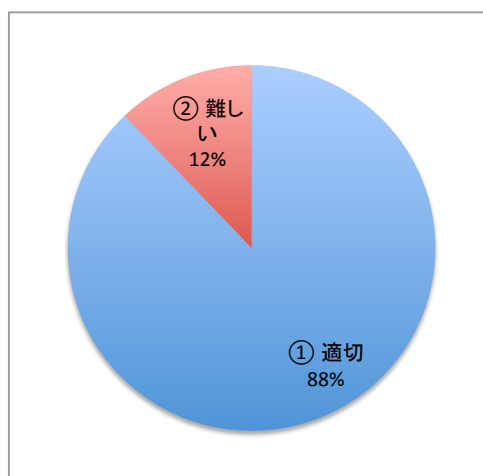
① 適切	30
② 要改善	0
③ どちらとも	4



Q2：小学校5・6年生を対象にしていますが、児童にとっての難易度はいかがでしたか？

A2：①適切だった ②難しかった ③簡単だった

① 適切	29
② 難しい	4
③ どちらとも	0



Q3：授業カリキュラム、各単元について、ご意見・ご要望等、お聞かせ下さい。

■良かった点

- ・情報リテラシーの学習にもつながってよかった。
- ・内容はよかったと思います。
- ・昨年度よりよくなっていたと思います。
- ・昨年度の実績を踏まえてよく練られていたと思います。
- ・記事数が削減されたことで、各単元ごとの理解をより深めることに集中できてよかった。各単元のポイント！が授業後に新聞づくりをしていて、振り返りや確認に役立っていた。
- ・見た感じでは5年生より6年生の方がしっかりと理解しているように見受けられました。



た。しかし、そこまでの大差はなく、（少し集中が続かない時もありましたが）みんなしっかりと理解し、次のステップに進んでいました。

・調べたいことから新聞記事の書き方まで詳しくスモールステップで進めていただいて、どの子にも分かりやすかったと思う。

・テキストもとても分かりやすくて良かったと思います。次回の授業ではこんな内容を予定しています、など予告をしてもらえれば子どもたちもネタを準備できたかなと思います。例えば、今回はP10～14をやります、みたいな。

#### ■反省・改善点

・難易度的には適切だと思いますが、どうしても個人の能力の差がでてきてしまい、よりかみくみて説明しないと分からない子も多かった。

・学校授業に合わせた単元のため、細かい動きのあるコマが大変だった。

・原稿は一度、参考記事などを模写するとコツがつかみやすいなと思いました。

・発表会の練習は前年の映像を見せるなどして、場のイメージをもってもらったほうがモチベーションが上がり、クオリティも上がると感じた。

・本校は3年、4年も一緒でしたので、その学年にとっては難しかったですが、貴重な体験になりました。

・調べ学習に入る前に、おさえる内容（著作権）がわりと多いので、学校側で新聞作りについて復習をしておけばよかったと思いました。

・5、6年生対象なのでこのくらいでよかったと思うが、本校では3年生から取り組みをしたので、3、4年生（特に3年生）にとっては大変難しかったようです。

・沖島小学校5、6年の児童には少し難しく感じたが、授業を受けていくうちに成長したように思う。

・カリキュラムに沿ってやるので、やらされている感じがあった。自主的につなげるにはカリキュラム以外での学習が必要。

・本校の場合は5、6年生で取り組んでいて6年生は2回目だったので、教え合いながらスムーズに進めることができた。

・3回目の授業だったと思うのですが、P16～25の、うみやまかわのトピックを探す作業が2段階あって、そこが同じ作業が重複して繰り返されている感じがして、分かりにくかったかなと思います。

・単元を通して新聞作りをすると、新聞のテーマ（本校では、上対馬と韓国の今と昔、そして未来へ）が具現化されていくと思います。テーマにせまるような授業構成があるともっといいと思いました。最後の授業か、発表会前の授業で設定するといいかもしれませんね。

・6年生が2回目のうみやまかわ新聞なので、5年生がとまどっていたら、うまくリードしたりフォローしたりしてくれました。

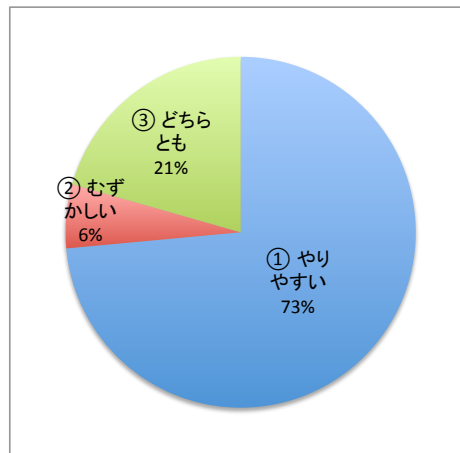
・今回、小4と小6が参加しましたが、小4には少し難しかったように思いました。自分の地域の学習、新聞作りにはさほど感じませんが、他地域との交流時の理解度、他地域の新聞の読み込みなどにはち時間が必要そうでした。小6の児童にはちょうど良さそうでした。

【テレビ電話会議システムについて】

Q1：テレビ電話の活用について授業の進行はいかがでしたか？

A1：①やりやすかった ②難しかった ③どちらとも言えない

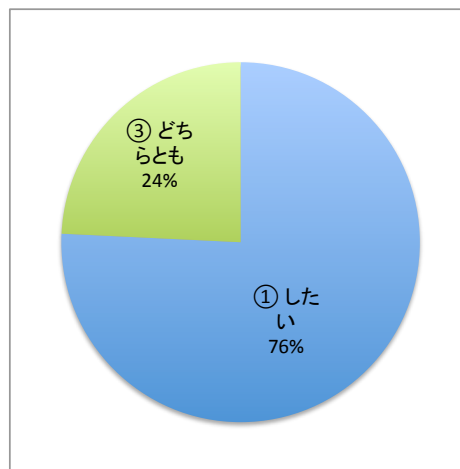
① やりやすい	25
② むずかしい	2
③ どちらとも	7



Q2：テレビ電話を別の授業などでも活用したいと思われますか？

A2：①活用したい ②活用する必要はない ③どちらとも言えない

① したい	25
② 必要ない	0
③ どちらとも	8



Q3：テレビ電話会議システムについて、ご意見・ご要望等をお聞かせ下さい。

■良かった点

・集中して授業を受けることができるのですごく良いと思います。特に他地域とつないで授業をする時はいい緊張感をもってできるので、今後も導入した方がよいと思います。

・遠隔地との安価で簡易なコミュニケーション手段としては素晴らしいと思います。離島はもちろんのこと、海外、特に通信インフラ環境が良くない場所（電話は無理でも携帯はつながるような地域は途上国にたくさんあります）とのコミュニケーションツールとして大いに魅力的です。その際、スカイプやメッセージといった既存の

システムを使うとことで固定費を減じることができるようにも思います。

- ・テレビ電話を使つての授業ということで、私自身テレビ電話を初めて使用する為、どんな雰囲気になるのか、全く想像できず不安でしたが、違和感なく自然に授業が進められていてびっくりしました。事前のセッティングは別の人に補助してもらっていた為、とても助かりました。

- ・本校をはじめとするへき地校には必須アイテムでした。

- ・他地域と交流できるメリットははかりしれないと思いました。

- ・ネットの向こうの人にも人格があることなどネットリテラシーの側面でもよいと思います。

- ・他校との交流学习がとても良かった。遠く離れた地域のことが身近に感じられ、仲良くなれた。東京発表に行った際も、今年交流した大城小や昨年度の豊小学校の児童とは前からの友達のようにすぐ打ち解けていた。

- ・他に地域との交流で活用したい。

- ・特に問題なくスムーズに使用できました。

- ・離島においてはテレビ電話会議を使つて他の学校で行われている授業と一緒に受けるということが、近い将来あるかもしれない。子どもたちにとってとてもよい経験だったと思う。

- ・テレビ電話会議システムは、離島経済新聞社のような専門家と連携したり、同じような環境に暮らす日本各地の小学校と繋がったりするのが、とても意義があると思います。地域差があるのは当然で、それを受け止め、一緒に考えることが協働の学びであり、多様性を実感する教育であると思います。

- ・通信状況は常に良好でした。こちらの音声が届きづらい時や、カメラの映像がうつらない時もリトケイの方々の助言ですぐに改善できました。他地域との接続がもっとあったらいいなと思いました。

#### ■反省・改善点

- ・1日の中でも初めと終わりに2回つなげる等必要。導入とまとめ。

- ・テレビ電話だけでなく、講師がやはり直接来てもらおうとその後のテレビ電話での集中力が増しますな。直接のコミュニケーションの効果というものがあるので。もう少し来てもらったら良かったかなという気もする。児童的には講師もあまり変わらない方がいいね。

- ・場所の問題もありますが、カメラのアングル決め、マイク位置が定まらず毎回試行錯誤でした。

- ・子どもや教師が慣れていないこともあり、目の前にいない多くの子ども達との交流、遅れて入って来る映像などに少しとまどっていたようにも感じられた。ただ、他地域と交流できるメリットははかりしれないと思いました。

- ・こちらの音声が届くのが遅いのと、受け答えのタイミングが難しく、迷惑をかけたと思います。

- ・もう少しカメラの画素数が高くなって、相手の顔がクリアに見えるといいなと思います。

- ・テレビ電話での授業は座学ということもあり、子どもにとって退屈だったようである。テレビ電話会議ではやはり、他校との交流メインの方が子どもにとっては良かったかもしれない。

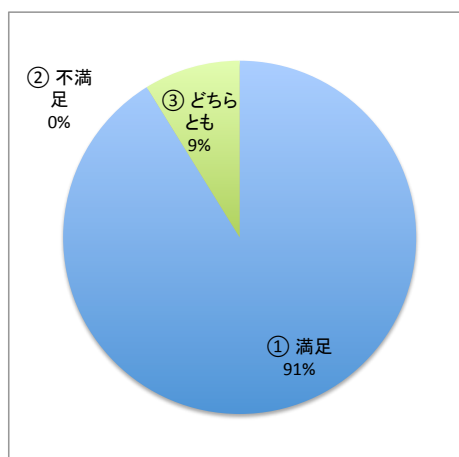
- ・電波の状況によって授業が止まってしまうことがあった。
- ・他教科でも活用できないか考えてみたが、やはり他の地域の先生との連絡手段がないため、活用するまでに至らなかった。また、コーディネーターの方が普段接続してくださるので、いざ、自分で使うとなると躊躇してしまった。学校同士で積極的に使えと、とても魅力的なシステムだと思う。
- ・もっと他校の子どもたちと交流したかった（全校とか理想的ですが、ムズカシイですね）。
- ・もっと交流の回数を増やしてもらったら嬉しいです。それか1回の交流の時間を長くしてほしい（子どもたちに消化不良を感じたため）。

【運営体制について】

Q1：プログラム全般に対する運営の質はいかがでしたか？

A1：①満足 ②不満足 ③どちらとも言えない

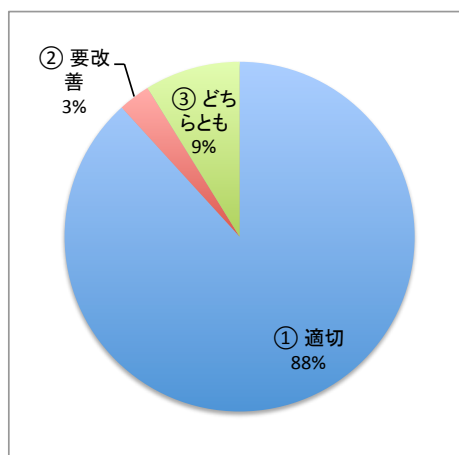
① 満足	31
② 不満足	0
③ どちらとも	3



Q2：事務局の運営体制についてはいかがでしたか？

A2：①適切だった ②改善が必要 ③どちらとも言えない

① 適切	30
② 要改善	1
③ どちらとも	3



Q3：本プログラムの運営全般（進行管理や媒体制作、体制などでも）についてご意見・ご要望等、お聞かせ下さい。

#### ■良かった点

- ・発表の機会はとても有意義だったと思う。
- ・自分たちの町を見直すきっかけとなり良かった。また、日本には自分たちの生活とは違う地域があることを知ることができ良かった。
- ・発信する責任を子どもたちは感じられたのではないか。
- ・パソコン配信での授業は良かった。
- ・大変に素晴らしい運営体制でした。
- ・事前に事務局から各授業の進行スケジュールを預けたので当日の進行にとっても役立つ。
- ・いつもとても親身に対応して下さり、有り難かったです。子どもたちはいつもテレビ電話越しに先生に会えるのをとても楽しみにしていました。
- ・ささいな質問にも丁寧に答えてくださいましたし、こまめにメールや電話で連絡もいただけていたので安心感がありました。
- ・よく相談にのってもらったり、こまごま知らせていただいたりと、ありがたかった。
- ・メッセージで随時やりとりができたのでよかった。たくさんの地域と関わられているので、大変だったと思いますが、適切に返答も頂いていたと思います。
- ・他の地域を知ることで、自分たちの住んでいるところの違いや良さに気づき、誇らしく思う気持ちが持てたと思う。離島経済新聞社や地域コーディネーターの方々の運営のおかげで子ども1人ひとりが役割をもち、グループ全員が協力しながら活動することができた。
- ・3年目ということでスムーズに進められたと思います。原稿も少なくなり、取材や記事の内容チェックが昨年度よりとても楽でした。先生の授業もわかりやすかったです！
- ・今年は新聞の1面を作るということで、取材内容が昨年10項目から5項目へ減ったことでとても取り組みやすかったです。子ども達も時間的にも内容的にも取り組みが充実していたと思います。
- ・どこをとってもきめ細やかな目がゆき届いている感じでやりやすかったです。
- ・丁寧に運営、学習サポートをして下さり、とてもやりやすかったです。
- ・事務局、地域コーディネーター、学校の三者が関わることによって、地域に根ざした紙面ができるのだと感じました。
- ・概ねよかったと思います。不便はなかった。

#### ■反省・改善点

- ・後半から本業が立て込んでしまい、授業報告の投稿が追いつかず滞ってしまい申し訳ございませんでした。ただもう少し、コンパクトな情報量で報告できればいいなと思いました。
- ・うみやまかわノートの紙が鉛筆では書きにくいものなので改善してもらえたらいいなと思います。事前に送っていただく進行表をすごく頼りにしていました。ただ、夕

イムスケジュール表が直感的に読み解きにくかったのももう少し見やすいといいです。

- ・発表会でパワーポイントで発表できたらよりよかったものになったと思う。7分という時間内なら何枚でも……と任せてほしかった。
- ・（宿泊の際）全員でのミーティング場所が狭かった。食事等も一回でできるところが望ましい。

### 【その他】

Q1：次年度に向けた改善点や年間通じて、プログラムへのご意見・ご要望など、お聞かせ下さい。

#### ■良かった点

- ・自分たちの地域だけでなく、他の地域のことを知ることで自分たちとは違った自然・文化などがあることを理解し、国土の多様性を理解する一歩となった。
- ・情報をどう扱うのか。取材し情報を集めて編集し、発表することの重責が理解できた。
- ・自分の住んでいる街を知り、評価するにあたって自然・歴史・文化・産業・福祉などの様々な軸、側面があることを知ることができた。
- ・児童たちは、うみやまかわ新聞のおかげで自分たちの住む地域についての理解が格段に進み、その良さもよくわかったかと思います。しかもそれだけにとどまらず、他地域との比較によって自身を客観化あるいは相対化して眺める訓練にもなったと思います。国土や風土、民族の多様性への理解を進め、深めるプロジェクトは大変に意義があると思います。今後別のプロジェクトへの応用を検討したいと思います。
- ・昨年度に比べて各单元への理解や探究心を深めることが重点的なプログラムになっていると感じた。記事量が減っても、各々の記事の質が高まり、子どもたちも想いを込めて新聞づくりに誇りをもって取り組んでくれたと思う。2月の東京での発表会を終えて子どもたちからは計りしれない成長を感じることができた。年間を通じて、いろいろな角度から学びを醸成し、最終的に一同に介して発表会で集い発表し合う貴重な機会は田舎の子どもたちにとって郷土愛を育む素晴らしいプログラムなので、木曾町でもこの御縁を大切に、補助金依存せずにできる仕組みを考えてゆきたい所存です。
- ・初めてこのプログラムに参加させて頂きましたが、多角的な学びを得ることのできるとても良い総合プログラムであると思いました。他地域を意識して、比較しながら木曾の地域の特徴をつかみ、「これは木曾町の自慢できる所だと思う！」などと授業中も積極的に発言をしてくれて嬉しかったです。地域間導入の為、他地域との交流があまりできなかったのが残念ではありますが、子どもたちも習い事等があり、とても忙しいので仕方なかったと思います。また、私自身もこのプログラムを通して海山川から生まれた文化が日本の中にこんなにも多様にあるんだという事に改めて気付くことができました。
- ・子どもたちの普段の生活ではなかなか触れることのない地域の内側と外側を知る貴重な時間でした。こういう活動が地域内で生まれて、一地域一紙くらいになると面白いですね。
- ・本当にお世話になりました。東京の発表は大変よい経験になったと同時によい刺激

にもなったと思います。よい機会を与えていただきありがとうございました。

・本校では3、4年生も取り組みました。記事作りはとても難しかったようですが、この経験が無駄にしないようにしたいです。

・取り組みの初めに、昨年度作成された「うみやまかわ新聞」を見せて頂いたので、イメージが湧きとてもわかりやすかったです。完成発表会の前に昨年度の発表の様子が分かる映像か何かを見せて頂けるとありがたかったかなと思います。

・東京発表は子ども達の最高の力を出せるのと、非日常的な雰囲気の中での発表は1年間のまとめとしてとてもよかったです。ありがとうございました。できあがった新聞は小学校の宝物になります。

・はじめの頃は私も学校も何をするのかわからない状況でしたが、前もって授業内容を送って頂いているので、特に困ったことはなかったです。

・下級生の児童たちが「私たちもやりたい」「東京へ行って発表したい」と言っています。尾川小で来年も続けられるといいのですがね。この2年間で多くの体験をし、知ることができました。東京でそれぞれの地域で同じ経験をした子どもたちが一堂に会し、友達になれたことにも、小さな地域同士だけに、とても有意義なものを感じました。この活動がずっと続き、実り多い事業になるようにと願っています。ありがとうございました。

・本校はこれまでも自分達の地域についての調べ学習は実施していましたが、このプログラムに参加することで、調べたことの発信の形や場を与えてもらえ、意欲的に取り組みました。改めて地域の良さを知ると共に、地域の方も喜んでくださり、関わりが多くなりました。2年間お世話になりました。

・学校の授業として導入していただいて、クラス全体で取り組めたことはとても有意義だった。年間スケジュールにはなかったが、学校独自にクラスの中で各グループの記事の発表会を参観日に行った。他のグループのことを知れたり、保護者の方々にも興味をもって聞いてもらえたりした。今後もこのような機会があれば継続して行いたい。

・次年度はステップアップとして、地域の現状にあった形で実施できればと思いますので、引き続き、どうぞよろしく願いいたします。

・初めてうみやまかわ新聞作りへ参加させていただきましたが、とても分かりやすく進めてくださったのでスムーズに取り組むことができました。ありがとうございました。

・全体を通して、一年間本当にありがとうございました。新聞づくりを通して、子どもたちだけでなく、私も多くのことを学ばせてもらいました。発表会の際も本当にお世話になりました。手厚いサポートのおかげで、子どもたちにも非常に思い出となる発表会になりました。

#### ■反省・改善点

・作成したものを地元でも他の場所でも発表する場は必要と感じました。

・新聞をつくることを目的ではなく、新聞づくりを通して学ぶ大切なことにフォーカスしてカリキュラムを立ててもらえると、次期学習指導要領のアクティブラーニングに近い学習になるのではないのでしょうか。

・完成品の新聞はやはり大きい版だったら良かったなという意見がよく聞かれました。

20時間の中だけでは記事を完成に持っていくのが難しかったようで、学校側でずいぶん時間をやりくりしてもらいました。そこに私はあまり関われなかったの（途中参入で様子がよくわからなかったのもありますが）学校とコーディネーターでもっと連携できるようにアテンドしてもらえると入りやすいかなと思います。

- ・今年のような形が本校の理想形に近いと思うので、次年度、形が変わるのが残念です。（たしかに発表会は東京会場のみという点は改善の余地があると思います）

- ・うみやまかわ新聞の授業が充実していたからだと思いますが、全体的に授業時間があつという間に過ぎてしまう印象でした。班の名前を決めたり、記事の担当を決めたりするところに時間がかかるので、そういうものが授業前に決まっているとスムーズに進行できるのかもしれませんが。例えば、新聞の詠み比べを朝の読書の時間などに読んでくれていると、授業で説明のあと少しで発表の段階へ進めて助かりました。

- ・発表会について本校のようなへき地にある場合、スケジュールがとても厳しい。3連休の時など、多少ゆとりのあるスケジュールだと助かります。

- ・学校の制約（時数など）もあり、色々悩みながらの1年でした。他校（他地域）ではどのように行っているのか等、情報交換もあれば今後も継続して取り組みやすいのではないかと思います。

- ・完成発表会に参加させて頂き、TVを通してだけでなく、実際に会う事の大切さを感じました。様々な地域から集まった子どもたちは、どの子も「他の地域の子と交流しよう！」という気持ちを持って参加していたように感じます。もう少し時間があればもっとお話しできたかなあと思いました。そして来年度は少し形式を変えるようですが、2月に集まるというのは天候が不安定で時化する時期だけに大変かなあと思いました。とは言っても新聞が完成する時期などからどうしてもこの日程となったのでしょうから難しいですね。

- ・新聞づくりに関しては、テーマ決め、記事の内容決めのプロセスにTVを通じて他地域との交流があったのはとても良かったと思います。欲を言えば、もしネット環境が良ければ安心して（余裕を持って）授業が進められたのに……と残念です。

- ・発表会前日の交流会について、もっと先生やコーディネーターを活用し、児童の交流を促してもよかったと思う。やはり、同じ地域の人数が少ないと児童も緊張して他地域の児童と交流しづらそうだった。ゲームの際に、テーブルごとに大人を配置しうまく交流しながらゲームに参加させることができれば、その後の活動もスムーズにいくと思う。特に先生方はアイスブレイキングの技を多く持っていると思うので、積極的に活用しても良いと思った。

- ・発表会での宿泊地やスケジュール等大変かと思いますが、少し改善されたらなおよかったかなと思いました。

- ・TV会議で授業を進める際、スライドでの表現だけではなく動画も交えながらの内容だと子どもたちもイメージしやすくなるのではと思いました。「取材」の説明だとすると、実際に子どもたちが取材を行っている動画を流すなど。



## 7. 事業総括

### <実施地域と事業の導入・実施について>

2016年度で3年目を迎え、2015年度から引き続き、小学校の総合学習の時間を活用した授業を基本として、前述の14地域（北海道利尻町・千葉県いすみ市・東京都江戸川区・山梨県北杜市・長野県木曾町・滋賀県近江八幡市・岡山県真庭市・愛媛県上島町・高知県佐川町・長崎県対馬市・大分県日田市・鹿児島県屋久島町・鹿児島県和泊町・沖縄県うるま市）にて事業を実施。うち、11地域で小学校（11校）の総合学習の授業として、3地域で地域団体による課外活動として、20時間を目安に授業を行った。過去2年に比べて、小学校や教育機関、地域等との連携実績も蓄積しており、事前の使用ツールの準備から体制構築、授業前から授業後のフォロースキームなど、しっかりと作り込むことができた。地域側、小学校、教育委員会からの信頼感も得られており、非常に円滑に進められたと考えている。

### <カリキュラムについて>

実施したカリキュラムについては、2015年度に小学校の学習指導要領等を参考に構築したものをベースに、より分かりやすく、使いやすくということイメージしてブラッシュアップを行った。前年度のアンケート回答などを元に、現場に入る先生・地域コーディネーターからの改善要望を積極的に取り入れ、かつ、小学校3～6年生という年代の幅にも対応できるように、視覚的にも分かりやすいアイコンやビジュアルを多用した教科書を制作。毎授業でポイントとなる部分、グループワークを行う部分、宿題となる部分、授業時のルールなどを明確にすることで児童もスムーズに授業に入れたと感じている。結果として2016年度のカリキュラムについては、先生方からの評価も高く、実際の授業進行も円滑に行うことができた。昨年度から引き続き、スケジュール面等では改善の余地があるが、本事業におけるカリキュラムとしては、2016年度である一定の集大成を残せたと感じている。その内容についても小学校で普段行われている学習指導および評価点等では高い親和性を得ることができた。

学習者である児童からの評価については、前項のアンケートにもある通り、概ね高かった。昨年度のように、新聞作り自体の作業としての難しさ、大変さについては、カリキュラムの工夫によりそれほど感じることはなかったようだ。一方でテレビ電話会議システムを活用した授業による地域間交流については、もっと時間をかけて実施する必要がある。特に多くの児童が緊張した、難しかったと感じている反面、楽しかったという印象も残っているだけに、より時間をかけて日常的に活用することで、コミュニケーション能力や考える力、自分の意見を発言する力をもっと醸成することができたと思われる。地域の「うみ」「やま」「かわ」を調べる單元などは、「楽しかった」「タメになった」という評価が多々見られた。本事業の最大の目的でもある「海洋教育の促進」に焦点を当てると、特に内陸で海のない地域の児童にとっては、「やま」「かわ」を含めた「水のつながり」をキーワードに、「うみ」のある他地域との交流は、直接的な海洋教育と比較し、即効性はないものの、「うみ」という存在に意識を向ける、きっかけづくりとしての有効性を強く感じた。

また、2015年度に小学校や地域コーディネーターからのアンケート回答にあった、事務局とのコミュニケーションや運営体制に対する不満・改善要望については、2016年度は非常

に少なく、運営面についても一定評価が与えられたと感じている。一方で、全体のスケジュール（20時間という想定コマ数をはじめとした年間スケジュール）については、2015年度から引き続き、改善要望が多く、各小学校における年間行事の多さや通常授業時のカリキュラム内容との乖離に起因される部分が多く、小学校との調整業務は今以上に重点的に行うことが必須と考えられる。本カリキュラムをより広く導入し、実施していくために、事務局機能の細部の精度向上等を図りたい。

#### <本事業への認知度・注目度について>

小学校への導入も2年目を迎え、実施地域内での認知度・注目度は前年度に比べると非常に高かった。同時に、地域の中で認められた結果として、これまでは物珍しさや新規事業という見方のみだった地域内の人たちから、事業の詳細を把握した上で、評価を得られることが多くなった。2015年度同様に1学期・2学期の早い段階で、地元議員や教育委員、民生委員等を務める方々からの授業見学が相次ぎ、9月～11月には、いくつかの学校にてコミュニティスクール・オープンスクール等があり、そこで本事業の取り組みを児童が紹介する場が設けられるなど、小学校への導入によって、事業の意義の訴求・認知拡大を図ることができた。地域メディア等からの取材も多く、2017年2月19日に実施した東京での発表会はもちろん、事業進行中から終了後まで、事業のメディア露出が前年度と比較して大幅に向上した。地域内でも役場HPでの事業紹介されるなど、本事業に対して一定評価がされているという手応えを感じている。

上記の内容から、2016年度に向けて、カリキュラムのブラッシュアップ・今年度のノウハウの蓄積による運営の安定化を図りつつ、事業自体の自走に向けた取り組みを加速し、導入小学校・地域の拡大と事業の意義訴求・目的達成を目指したい。